

## 受賞者のその後の取り組み（平成 29 年現在）

<b>平成 23 年度 環境大臣賞</b> <small>「個人・グループ・学校・分野」</small> <b>受賞</b>	受賞者名
	所在地
	受賞テーマ

**向井 哲朗**

鳥取県米子市

『使用済み割り箸の再資源化活動』

### 1. 活動継続 あり

勤務していた王子製紙米子工場社員食堂で、廃棄されていた使用済み割り箸について『もったいない。回収して工場で紙の原料にしたら』という私の問題提起から始まった取り組みは、その後王子グループの割り箸リサイクル活動として全国に拡大、継承されている。

[https://www.ojiholdings.co.jp/sustainability/paper\\_recycling/chopstick/](https://www.ojiholdings.co.jp/sustainability/paper_recycling/chopstick/)

現在は、こどもエコクラブのメンバーや保護者など、関係者に支えられながら環境に関する親子勉強会、米子水鳥公園に出向いての水鳥観察会、環境パトロール、中海の湖岸美化清掃、ハブ茶栽培等の活動を続けている。

### 2. 活動の広がり あり

『使用済み割り箸の再資源化活動』は、市内の各学校での環境教育として、生徒と先生、保護者が一体となって現在も活動を展開している。また、米子市の行政、料飲店、ホテル・旅館等にも協力をお願いして地域全体で取り組みが定着している。

活動の概要については、手づくりの環境新聞「中海」（1989年初刊・A-4版）を毎月1回発行し、県内外の多くの関係者に配布・紹介し、広報にも努めている。

第 344 号 (2)

環境新聞「中海」

2016 年（平成 28 年）5 月 1 日(日)

彦名地区チビツ子環境パトロール隊



● 所在地 米子市彦名町4530-2
● 代表 向井 哲朗

どんな団体？

環境改善・保全活動に関し効果的かつ具体的な施策を地域に情報提供し、啓発・普及に努めること並びに地域の環境事業及び環境教育・学習支援活動の場を創出し、活力ある地域形成に寄与することを目的とする。本目的を達成するために、環境の保全を図る活動、子どもの健全育成を図る活動、社会教育の推進、街づくりの推進を図る活動等を行う。具体的には以下の学習事業を行っている

- ①次世代を担う子ども達への環境教育・体験学習
- ②自然エネルギーの重要性についての体験学習
- ③持続可能な循環型社会の形成支援学習
- ④地球温暖化防止に関する学習
- ⑤ふれあい創出支援学習
- ⑥地域活性化支援学習
- ⑦広報紙環境新聞「中海」の発行（1回/月）



彦名公民館前に設置された使用済み割り箸回収ボックスの前で彦名地区チビツ子環境パトロール隊親子と記念撮影

とっとり元気フェスタ 2016 開催

3月27日(日)とっとり元気フェスタ2016・とっとり力創祭りが米子コンベンションセンターで開催され「彦名地区チビツ子環境パトロール隊」の活動についてパネル展示、広報紙環境新聞「中海」を掲載展示、多くの来場者の皆さんに広報させて戴いた。当日、林副知事から叱咤激励のお言葉を頂いた。

環境新聞「中海」（2016年(平成28年)5月1日号)の記事の一部。

彦名公民館前に設置された使用済み割り箸回収ボックスの前で、彦名地区チビツ子環境パトロール隊と記念撮影。

### 3. 活動の進化 あり

「障がい者との協働による廃食油の回収・BDF(バイオディーゼル燃料)製造販売事業」の実践展開

NPO・企業・住民・学校(幼稚園)・行政等地域の多くの住民の協力・協働のもとで、各自の得意分野を活かして廃食油を回収し障がい者施設『吾亦紅』でBDFを精製・販売・軽油車輛の代替燃料の用途を提案し、事業を展開している。

本事業を継続的に拡大展開していくために最も重要なことは廃食油の確保である。私の町内では、15の自治会全ての公民館に廃食油回収用の20ℓのポリタンクとロートを設置、各家庭で不要になった廃てんぷら油を各自が持参して回収、回収した廃食油は障がい者施設『吾亦紅』の職員と障がい者の皆さんが定期的に回収している。地域の住民や公民館、自治会、婦人会、学校、企業、行政が協力しながら、障がい者と協働で取り組みを進めている。

私も、事業場や役所、町内会、公民館等での環境講演会、小中学校・高校での環境学習会、大学での環境講座等に積極的に出向いて出前授業やチラシ配布等の広報活動を行い、地域に根差した活動として定着させるための支援を行っている。

### 4. 今後の計画

環境問題により関心を持って頂くために、環境新聞「中海」を今後も継続して発行していく。

多くの町民や市民・県内外の皆さんに本紙をお届けし利活用して頂き、環境改善の実践の輪を更に広げていきたいと考えている。

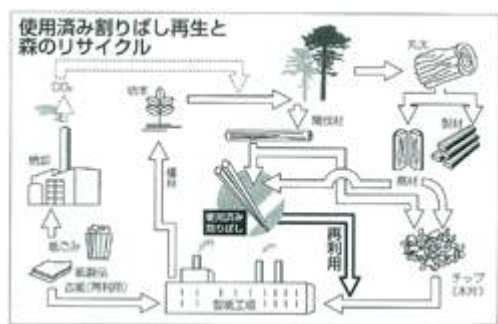
(次頁に表彰概要掲載)

## 【表彰概要】

同氏は、「子どもも大人も身近な環境問題を五感で感じる事が課題解決へ繋がる近道」との発想から、1990年にこどもを中心としたエコクラブ「彦名地区チビッ子環境パトロール隊」を結成し、体験型環境学習の指導をしている。同氏が、こども達との勉強会で質問された「教科書には緑が大切と書いてあるのに、おじさんの紙工場では森林破壊しているの?」という問いかけは、全国で初めての試みでもあった、使用済みの割り箸を回収し、製紙工場で紙資源として再利用する取り組みへと発展した。

社員食堂での割り箸回収がスタートしたのは、1994年。翌年には、地元温泉旅館の協力を得て、温泉街の使用済み割り箸を回収するシステムを構築した。米子市内の各郵便局やスーパー等に割り箸回収箱を設置してもらい、県内の学校、企業、飲食店、行政へと回収の輪が広がった。3膳の使用済みの割り箸でA4コピー用紙が1枚か、ハガキ1枚に再生される。また、2,500膳ではティッシュボックス15箱に生まれ変わる。鳥取県米子市発のこの取り組みは、今では全国運動として定着し、点から線、線から面の活動展開となった。回収当初から今日までに(1995年~2011年3月)、全国各地から送られてきた使用済み割り箸は、製紙会社全体(全国9工場で受入れ)で6,200トン。割り箸に含まれる1/2相当の繊維分の3,100トンが、紙に再生されている。紙にならない残りの樹脂やリグニン等の木質部分は、発電用ボイラーの燃料に利用されるため、その分の化石燃料が節約され、CO<sub>2</sub>の発生が抑制され、地球温暖化防止にも寄与するリサイクルになっている。

1999年夏には「割り箸の夢とロマンの旅を語ろう」と米子市で『全国割り箸サミット』を開催、その後も7回米子で開催、香川県高松市でも開催している。使い捨てられていた割り箸が紙に生まれ変わって再び役に立つという内容が反響を呼び、ゴミの減量、資源保護、節約などの環境意識の啓発、教育面で大きな共感を得ている。割り箸回収運動は「地球を救うために、いま私たちが誰でも身近にできること」として資源を無駄にしないライフスタイルとして、社会に浸透しつつある。



使用済み割りばし再生と森のサイクル



子ども達を書いたPRポスター



町内に設置している割り箸回収ボックス



来県したロシアの皆さんに体験学習の指導